

# グループホームけいあい(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 20 年 12 月 16 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1870500137
法人名	社会福祉法人 光明寺福祉会
事業所名	グループホームけいあい
所在地	大野市牛ヶ原154-1-1 (電話) 0779-65-7132

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成20年7月2日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】 ( 20 年 6 月 1 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人、非常勤 0 人、常勤換算 6 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り		
	2 階建ての	~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	179 円	昼食	284 円
	夕食	263 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

### (4)利用者の概要 ( 6 月 1 日 現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 84.8 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院 ・ 山崎歯科医院
---------	---------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大野市中心部から福井方面に向かう国道沿いの小高い丘一帯に老人保健施設を母体とした同法人が運営する複数の事業所群があり、グループホームはその中で母体施設と併設する形で設置されている。地域の集落は法人の敷地から少し離れた所に点在しており、周囲からは静かな山里の感じを受けるが地域との関わりという点では希薄になりがちな立地条件でもある。同法人の複数事業所が隣接しているため、入居者の生活や活動、職員同士の関わりと配置等において一体的な運営がなされており、合同の行事や入居者の自由な行き来による行動範囲の広がり、看護師、管理栄養士の協力体制、人事交流、重度化した場合の支援等での連携があり、家族の安心にもつながっている。その一方でホームとしての支援では、管理者を中心に、職員が日々基本理念を振り返りながら入居者は家族であるという信念の下で、日常生活支援や家族とのコミュニケーションに取り組んでおり、外部評価も最大限活用しながら入居者本位の支援について着実な改善とサービスの質の向上に努めている。地域とのつながり、地域への浸透という点では難しい立地条件・地域風土の中で運営推進会議には、ホームの努力もあって多くの地域代表者の参加を得ながら、ホームの発展に向けて意見が交わされている。その結果、公民館での介護教室に講師として参加したりと理解の広がりが見られるようになってきており、今後も地域への働きかけを継続して、地域と共にあるグループホームとしてその存在が定着していくことが大いに期待できるホームである。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「自分達で可能な限り改善していこう」との基本スタンスを持って、改善に取り組んでいる。具体的には、前回評価の改善課題として挙げられた、緊急時の非常持ち出しの用意、希望に応じた入浴支援等で改善がみられる。また、アセスメントの記録や終末期の支援のあり方、入居者の閉塞感への配慮については、継続的な課題となっているが、運営推進会議等でも話し合いがもたれており、改善に向けて真摯に取り組む姿勢が確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義がより職員に浸透するよう、一人ひとりに自己評価を課している。特に今後取り組んでいきたいことに力点を置いて、自分達の努力で改善できるところは実践につなげている。職員全体の士気も高いため、更なる向上心をもって支援に取り組むことが大いに期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、家族会や入居者代表をはじめ、市または地域包括支援センターのほか、地元の区長、老人会代表、民生委員等地域代表の方の参加が多いのが特徴で、2か月に1回、定期的な会議が持たれている。外部評価を踏まえたホームの運営や活動の現状報告の後、それぞれの立場から積極的な意見交換がなされており、運営やサービスの質の向上に向けた取り組みに反映されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族とのコミュニケーションを大切に考えており、日常の面会時には必ず個別台帳に目を通してもらったり、月々の領収書も郵送ではなく家族の顔を見て渡すようにしている。また、家族会を設けており、クリスマス会等の行事の時に話し合いの機会を持って、普段話せないようなことも踏み込んで話をしながら、家族の心情を汲み取るように心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議でも働きかけるとともに、ホームからも地区行事の参加について積極的に呼びかけてはいるが、まだ十分には実現していない。周辺に同法人の複数事業所・施設が集合しており、民家も少ないことから、関係性が薄く、また、古くからの地域だけに事業所が浸透していくには時間がかかる事情もあるが、地区公民館の介護教室に講師として参加するなど、少しずつ交流が深まっている。

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営</b> 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が自分達で創り上げた「やわらかい心」という理念の理解をより深めるため、また、地域密着型サービスの意義に基づいた支援を徹底するため、より具体化した基本理念を明示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	仕事の前に各職員がホーム入り口に掲示された理念を確認し、終業時も理念に沿った実践ができたかを振り返るように申し合わせている。業務の中で理念に反するような言動が見られた時は管理者がその都度職員に声かけをしている。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議でも働きかけるとともに、ホームからも地区行事の参加について積極的に呼びかけている。周辺に民家も少ないことから、関係性が薄く、また、古くからの地域だけに事業所が浸透していくには時間がかかる事情もあるが、地区公民館の介護教室に講師として参加するなど、少しずつ交流が深まっている。		同法人の事業所や施設が密集するエリアも一つの地域と考えて、法人内で実施する敬老会への参加等利用者間の交流を深めたり、市内の福祉施設同士の交流にも参加するなどの取り組みを期待したい。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義がより職員に浸透するよう、一人ひとりに自己評価を課している。特に今後取り組んでいきたいことに力点を置いて、自分達の努力で改善できることは実践につなげている。外部評価結果については運営推進会議でも協議したり、広報誌や事務所カウンターで公開するなど広く活用している。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会や入居者代表を始め、市関係者の他地域代表者の参加が多いのが特徴で、2か月に1回、定期的な会議が持たれている。外部評価を踏まえたホームの運営や活動の現状報告の後、それぞれの立場から積極的な意見交換がなされており、運営やサービスの質の向上に向けた取り組みに反映されている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する講習会やケアマネジャーの会議、介護相談員の受け入れ等で市担当者との連携が図られている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず生活の様子を報告するとともに、個別台帳に目を通してもらうように声かけをしている。広報誌の送付以外は、月々の領収書等も郵送ではなく家族の顔を見て渡すようにして、家族にホームに来てもらう機会づくりとコミュニケーションを大切にしている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のコミュニケーションのほか、家族会も設けており、クリスマス会等の行事の時に話し合いの機会を持って、普段話せないようなことも踏み込んで話をしながら、家族の心情を汲み取るように心がけている。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階部分の介護老人保健施設ユニットと2階部分のグループホームのユニットとは一体的な勤務体制が取られており、日常的な関わりや合同行事も実施しているため、職員の異動があっても1～2階のユニット全体で、馴染みの関係を保つ配慮がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は新人職員を、まず、常に入居者の側にいることと調理ができるようになることを最優先にして育て、資格についても積極的に取得するよう奨励している。研修等の参加は各職員に案内しながら希望を取り、勤務体制に配慮して参加しやすいように支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入するとともに、奥越地区にある他施設職員との交流や福井市内にある同法人グループの小規模多機能型居宅介護事業所等との交流を持ち、情報交換を行っている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては体験、見学やケアマネジャーとの連携を取って、本人が安心して、納得して入居できるように支援しており、入居後も家族の面会を多くして、本人の状態に応じた支援ができるように家族と相談しながら取り組んでいる。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と常に一緒にいて、野菜を作ったり、話をしたりして共に生活していることで家族のような気持ちで学んだり、支援に取り組んでいることがヒヤリングから確認できた。入居者からも、食事の副食を職員と共に前日から準備したこと等の話が聞けた。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式を活用したケアプランを作成している。ほとんどの入居者が会話によってコミュニケーションを取れる状態であり、包括的な意向の把握に取り組んでいる。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は入居者ごとの担当制となっており、本人、家族の意向に副いながら、また、主治医の意見も聞きながら、ケア会議で他の職員の意見も参考にして、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとの見直しを基本に入居者の変化に気を付けながら、計画作成担当者との協議や家族と相談して、見直しを行っている。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事療法への対応や早期退院に向けた支援にも取り組むほか、日常的に併設の介護老人保健施設との人事交流や合同行事等での連携があり、グループホーム内の生活だけでなく、活動範囲に幅のある生活を支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医との関係を大切に、入居後も本人・家族の希望により継続した関係が保たれるように支援している。通院等の付き添いには家族の協力を得ているが、三者が必要な情報を共有しながら支える仕組みが取られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は重度化した場合、家族の希望により併設の介護老人保健施設に移れるようになっているが、医療ニーズが高くなってきた場合でも訪問看護を受け入れて支援できるように、職員と意識共有しながら検討している段階である。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援等でも周りに気づかれないようにさりげなく誘導を行ったり、居室の入室時にも許可を得たり、個別台帳についても適切に管理されており、日頃の取り組みの徹底ぶりがうかがえた。広報誌等も配付先によって入居者の顔が分からないようにするなどの配慮がなされている。		最近、安全管理上の目的から、ホームの共用空間内に監視カメラを設置しているが、設置の目的や運用の方法、プライバシー保護のための対策等について運営推進会議や家族に丁寧に説明・協議した上で同意を得るなどの適切な対応が求められる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者一人ひとりのペースに応じた関わりをしており、また、入居者も自分の思いを伝えることができる方が多いため、朝のお勤めから始まり、買い物、散歩、お墓参り等の希望を叶えられるよう支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は季節の食材や入居者の希望を採り入れながら献立を作成しており、一人ひとりの能力に応じて準備や調理、盛り付け、後片付けを行ってもらっている。食事は職員も声かけや会話をしながら一緒にしており、楽しく食事ができる雰囲気となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午後を基本に、夏場は夕方のシャワー浴を加え、いつでも自由に入ることは条件的に難しい中でも、入る順番や仲の良い方との入浴希望等に副えるよう勤務体制を考慮しながら支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の装飾、居室の暖簾作り、入居者のかつての職業を活かした取り組み等で役割や楽しみのある日々を支援するとともに、外出の機会を確保したり、一緒に過ごしながら入居者の思いにもできる限り応えるようにしている。また、時事の話題も職員が工夫して会話に盛り込みながら生活の張りや元気につなげるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや外食、おやつ等の買物で外出する機会を設けている。また、仲の良い人同士の組み合わせにも配慮しながら、全員に外出する機会が確保できるよう計画的に支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出るためにはエレベーターを使用しているが、入居者は家族が職員と乗ることとなっている。操作ボタンに誤作動防止のためとは言えカバーがかかっていることについて前回評価で指摘を受けて、再検討を重ねてはいるもののまだ解決には至っていない。		入居者や家族への説明、運営推進会議でも協議がなされており、また、閉塞感を感じないよう外出の機会を多く持つなどの取り組みもみられるため、現状の中で引き続き問題意識を持ちながら、入居者の様子を観察して、適宜必要な判断をしていくことを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回グループ全体の避難訓練が行われており、ホーム単独でも月1回の避難訓練が行われている。前回評価で指摘を受けた非常時の持ち出し物については場所ごとに掲示して改善している。また、運営推進会議等でも地域との協力体制について話し合われている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では併設施設の管理栄養士に献立をチェックしてもらうことや主治医からも治療食の指導を受けている。また、水分補給は午前と午後1回と入浴の前後に白湯や麦茶を飲めるようにしている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事テーブルとトップライトを中心にして、居室や台所、ソファ、畳スペース等が程よく配置され、季節に応じた装飾にも工夫がみられる。自由に出ることができる広いベランダにもプランターがふんだんに置かれ、野菜や草花等が楽しめるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとに入居者の馴染みの家具や思い出の品等が持ち込まれており、本人の居心地の良い落ち着いた生活について、家族の協力が得られた支援がなされている。		

グループホームけいあい

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b>			
	<b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やわらかい心」という理念をより具体的にした基本理念『五感の刺激を大切に、生きがいと自立、敬愛にあふれた家作り、地域に開かれたホーム。』をあげ、日々努力している		地域にある小学校・幼稚園との交流、左議長などの行事への参加、大野市で行われている行事(文化祭、ふれあい祭り、花火大会など)への参加を続けていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者家族から信頼されるホームを目指して日々努力すると共に、時折振り返りながら適切なケアが行われているか確認しあうようにしている 「やわらかいこころ」を見て、今日も一日「やわらかいこころ」で勤務できたかと振り返るようにしている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	常に家族や地域とのふれあいが一番大切であることを常に話している 家族の方々には、理解していただけているのではないかと思う		運営推進会議を通して、徐々にではあるが地域の皆様にも「けいあい」が地域にあることを理解していただけるようになってきていると思う どうしても母体である光明寺福祉会が大きくすべて同じであると思われているところがあり、今後も地域の方にもっと理解していただけるよう努力していきたい
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った時など、近所の方に会ったときには挨拶をしたり、話をしたりする機会をもつようにしている 時間があれば、保育園などによって子どもとの交流を楽しむ時もある		入居前の近所の方が遊びに来てくださる方がいるが、おたがいに高齢ということもあり日常的に遊びに来ていただくと言うことは少ない 近所の方々にも日常的に立ち寄りいただけるような関係が築けるようこれからも努力していきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれる行事にはなるだけ参加するように心掛けている 地域の小学校の運動会への参加や、高校生のボランティア受入、公民館行事への参加など積極的に行うようにしている		老人会等の行事に参加出来るように働きかけているが、見学はできても参加できない事が多いが、これからも参加出来るように働きかけていきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの受け入れ、福祉相談員の受け入れを行なっている 公民館等で行われる地域の方々を中心とした「介護者教室」に参加している		
	<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価での評価を活かし、改善できるところを見つけ、より良いホームになるよう努力している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を利用し、意見交換を行なうことでより良いホームになる為に、新しい取り組みができるよう意見をいただき、その中のできることから取り組む努力をしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行なわれる講習会や、ケアマネ会議などへの参加や毎月のホーム便り配布、家族会への参加要請、介護相談員の受け入れなどを通して市担当者との連携が取れるようにしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	福祉権利擁護事業や成年後見人制度について講習会、勉強会に参加するようにしている		家族などから相談があったときにはこのような事業があることなどの説明をするようにしているが、現在必要な方が居られないこともあり、活用・支援にまでは至っていない
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進員の研修会に毎年参加するようにしている事業所内で虐待などがないように常に話し合い、実践を心掛けている		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はこちらも、常に不安点、疑問点には十分な説明ができるようゆとりを持った対応を心掛けている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情処理委員会の設置、外部の相談場所などがひと目でわかるような掲示を行なっている 入居者の場合なかなか外部の機関を利用することはできないので訴えをゆっくりと聞けるような時間を持つようにしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、現在の状態を必ず報告するようにしている 個人カルテをいつでも閲覧できるようにカウンターに置くようにしており、必要に応じて読んでいただくように声掛けをしている 「けいあい」便りを発行している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情処理委員会の設置、外部の相談場所などがひと目でわかるような掲示を行なっている 家族の皆さんとは何でも話せるようにしている 家族会を開き普段は聞けないことなどをざっくばらんに話せる時間を設けている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回(必要時にはその都度)会議を開き、意見の交換ができるようにしている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時にわかっている行事については初めからゆとりを持った勤務を組むように勤めている 急きょ勤務の変更があったときには職員間で話を行い柔軟な対応ができるよう努めている		H19年9月以降勤務体制が変わり日勤帯に少しゆとりが出来たので、それを活かしたケアが出来ないか試行錯誤している
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるだけ馴染みの関係が保てるように心掛け職員の移動によるダメージが最小限になるようにしている 法人内異動があった場合にはユニット職員の中から異動ができる様配慮していただいている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行なわれる研修会になるだけ参加できるよう案内がくるとすぐに回覧したり、希望があれば、参加できるよう勤務体制について配慮をしている 仕事上必要な資格については積極的に習得するよう常に話している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回行なわれるスポーツ大会への参加や、交流会への参加を行なっている 地域で行なわれる勉強会にはなるだけ参加し、他の施設との交流を持つようになっている(奥越地区に女性部会という組織があり、職員勉強会や交流会が年1回ある)		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中は常に入居者と共に過ごすことが当たり前になっているが、職員間で話し合いをし当日勤務者同士休憩が取れるよう声を掛け合うことである程度ストレス軽減が出来るようにしている 職員で親睦会を作り2、3ヶ月に1回程度の交流会を開いている		法人内全職員との親睦会もよいが、けいあい職員だけの交流会もあってもよいのではないかと意見があり勤務調整をして開けるようにしていく
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修レポートの提出、勤務態度、勤務状況を考慮した昇給が行なわれる 資格の習得に応じた資格手当が支給されている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居申込の時点で、必ず見学や体験をしていただくようにしている 家族からの相談を念頭に置き、本人の希望、訴えを伺うよう努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	本人が見学や体験をする前に、担当ケアマネジャーからの情報をふまえて、家族の不安、希望、訴えを伺うよう努力している		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、希望の中で入居した時、ホームで支援していくことができる事、できない事を見極めると共に、家族の協力や本人の理解・納得のもとに最大限の努力・支援を行なえるよう対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居あたり、家族や担当ケアマネジャーと相談をしながら、主治医の往診や訪問看護師の利用など今まで利用していたサービスが継続して利用できるように工夫している		入居間もない時期は、家族と相談して面会の回数を増やす、外出する機会を増やす、定期的に外泊するなど本人の状態に応じた支援が出来るよう家族と相談しながら工夫している
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一緒に過ごすことで、家族のような気持ちで接することができる様努力している 又、入居者の経験に築いた知恵をいただくことでお互いに支えあえる関係を築いていけるよう努力している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会でも、家族の皆様の協力なしでは本人の生活やホームが成り立っていかないことを常に話すと共に、家族とも遠慮しないで話し合っている関係を築けるように努力している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を理解し、少しでも良い関係を継続して保てるよう支援している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に数回外出する機会を利用し、いつも行っていたマーケットや店屋などへ出掛け顔なじみの方に声を掛けて頂いたり、会話を楽しむことができる様時間にゆとりを持たせるようにしている		入居間もない時期は、家族と相談して面会の回数を増やす、外出する機会を増やす、定期的に外泊するなど本人の状態に応じた支援が出来るよう家族と相談しながら工夫している
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が協力する場面を作ったり、常に支えあうことの大切さを話したり、同じ方とばかり過ごさず誰とでも仲良く過ごせるような関係が作れるように職員が間に入りきかけを作るように努力している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから併設の施設に移られた方や退所された方、家族の方々とは、今でも挨拶をするなどして声を掛けるようにしている 併設に移られた方が、ホームに遊びに来たり、こちらから会いに行ったりできるように心掛けている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思っている暮らしが継続できるように、本人の希望を踏まえたケアプランが作れるよう、本人となるだけ話すようにしている、 希望に応じホームでの対応が適切に出来るように、また家族の協力が得られるように努力している		各職員に共通しているのは、肌で感じたり口では表現できるが、文章に表すことが出来ないことである。そのためせっかくあるセンター方式が上手く活用できていないので、センター方式をもっと活かせるようにしていきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネジャーとなるだけ話をすることで、把握できるように努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の現在の状態把握や本人ができる事、できない事を見つけるよう努力している		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を取り入れ、主治医(看護師)等の意見を参考に職員全員がそれぞれの意見を交換しながらケアプランを作成するようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化が見られたときには、それぞれがすぐに話し合うことで状態に即した新しい計画書を作成するようにしている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の状態がわかるような記録をつけ(個人カルテ)、月のまとめやプランが達成できているかなどを見直しを行なうことで必要に応じた見直しができるようにしている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状態に応じ、柔軟な対応が出来るように努めている 主治医の指示のもとに食事療法や、早期退院・自宅(ホーム内)療養などが出来るよう支援できるよう努めている		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高校生のボランティア(月1回)、県社協主催のサマーボランティア、福祉相談員の受け入れを行なっている 併設に訪問があったときにはこちらから訪問するようにしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険を使用した他のサービスを受けることは出来ないが、ユニットケア、軽費老人ホーム、通所施設との交流が行えるように調整をし交流会を行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	大野市の福祉課や包括支援センターとの連絡を密にするようにしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医との関係を保つようにしている 必要時には、往診などの対応をしていただけるように病院との関係を大切にしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の(月1回)往診を利用し、普段の状態の報告、状態に応じた介護の相談、必要時の検査(認定調査)依頼など、状態に応じた相談ができるようになっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの病院の看護師、訪問看護師などに相談し、いろいろなアドバイスがいただけるようにしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関や家族との情報交換を行なうことで、受け入れ体制を整え早期退院ができるようにしている 退院時には情報提供をいただくようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>状態の変化に応じ、その都度家族や主治医と話し合いを行い、以後の方針について検討するようにしている</p>		<p>職員間で重度化に向け、適切な対応が提供できるよう勉強会を行っている</p> <p>重度化への対応がスムーズに取り組めるように、近いうちに訪問看護ステーションとの契約を行いたいと思う</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所で対応できることできないことなどをふまえ、かかりつけ医、家族と相談しながら今後の変化に対応できるようにしている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームを退所して移り住むにあたり、担当ケアマネジャー・施設指導員・医療機関ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行いケアが継続して行なっていけるように努めている</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけや個人対応時にはプライバシーの確保を行なうよう心掛けている</p> <p>個人情報の保護に努めている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人と話をすることで希望を聞き、自分で納得して決めることを大切にしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースを大切にされた対応を心掛けている</p> <p>散歩に行きたい方、手芸をしたい方等希望に添って支援できるように心掛けている</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居説明を行なう時には、馴染みの美容室を利用できるように話している</p> <p>約半数の方が、馴染みの美容室を利用されている</p> <p>普段使用していた「姿見」を持ってきていただいたことで状態が落ち着いた方もいる</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>暖かい物、冷たい物の提供、お誕生会の希望献立、季節の食材を使った献立、メニューを考える時には食べたい物を各自から聞き、取り入れるなどを心掛け、一人一人ができることを手伝いながら食事の準備や片付けを行なっている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買物に出掛けたときには、参加された方の好みのおやつや副食材料を購入したり、家族が好みのおやつなどを持ち込まれたときには、楽しんでいただけるように配慮している</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼夜一人一人の排泄パターンを把握して誘導(声掛け)するように心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番や、仲の良い方との入浴をしていただくなど希望を聞いて入浴できるようにしている 「菖蒲湯」「ゆず湯」等季節に応じた入浴方法を取り入れている		自由に入って頂きたいが、設備に問題があり、いつでも入浴出来るような体制が取れない 出来るだけ楽しめる入浴になるよう季節に応じた入浴の工夫を行っていききたい 夏期には入居者の希望に合わせて夕方シャワー浴が出来るよう配慮していく
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるたけ入眠剤などを使用せず、睡眠が取れるように主治医と相談して対応している方もいるが、ゆっくり休めるよう布団を干したりこ散歩・体操をしてある程度疲れて休んでいただくよう支援している		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人が出来ることの中で係りを持ち、達成することで喜びを感じたり、買物や散歩、畑仕事に出ることなどで気晴らしができる環境を大切にしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方に関しては、自己管理ができるように支援しており、買物などに出たときには、手持ちの中から払っていただくようにしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の方の協力を得て本人が出掛けたい場所に行くことが出来るよう支援している 天気の良い日には、なるたけ外に出られるよう散歩に誘ったり、畑仕事に誘ったりしている		入居して時間が経ってくると、家族との会話も何となくよそよそしくなり、時間があれば一緒に外出したいと思っている入居者もいると思うが上手く伝えることが出来ないようなときが見られるので職員が代わりに気持ちを伝えるようにしている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参りや今まで住んでいた土地、旅行など家族と共に出かけることができるよう機会を見て声掛けるようにしている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室から電話が掛けられるよう設置してある 家族から電話がかかってきたりしたときにはゆっくりと話ができるように居室で電話を取っていただいている 家族の協力を得て、手紙のやり取りをしている方もいる		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、親戚の方々が面会時ゆっくりとしていってくださっている 家族の方が職員が行っている仕事を手伝ってくださったり、他の入居者の方と談笑される時もある		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為に講習会に参加し常に勉強することで、職員一同拘束をしないよう取り組んでいる 職員会議や介護時などお互いに声を掛け合い拘束することがないように工夫している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常階段には鍵がかかっているが併設との間は自由に行き来ができるよう夜間帯を除き鍵を掛けないようにしている (エレベーターが在宅用の為誤作動しやすく、設置会社の指導でボタンの上からラバーを貼っている)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に入居者の方々がどこにいるか把握できる位置にいるようにし、夜間帯は常にホールで待機している 又1時間から1.5時間に1回はプライバシーに配慮しながら居室の巡回を行い、状態の把握と安全確認を行なっている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じた対応を心掛けている (自分で管理できる方はハサミ、爪きり、針などを持っており自分で必要な時には使用している 必要があれば、職員のいるところで使用するよう話し、見守れる環境を作っている)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルの確認を月1回は行なうようにしている 状態の変化に応じ柔軟な対応が出来るように必要に応じて各種勉強会に参加するようにしている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの確認を月1回は行なうようにしている 緊急時には、必要な処置を行なう、併設の医者や看護師などの応援を得る、管理者への報告・指示に従い家族への連絡を行なうなど適切な対応が出来るよう心掛けている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練実施している 年2回の併設合同避難訓練を実施している 非常持ち出し物品を準備している		併設施設全体が地区になっているので、緊急時には緊急連絡網により、光明寺福祉会職員全員で対応できる体制をとっている 地区以外の方々の協力を得た避難訓練を行うまでにはなっていないが、運営推進会議において大事の時には協力が得られるような力強い意見をいただいている
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等を利用して、現在の状態を話すと共に、これから考えられるリスクについての説明と対応策(ホームで出来ること)について積極的に話すようにしている		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い、『いつもと違う』という気付きを大切に、常に体調の変化に気を付け、申し送りを必ずするように心掛けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテには現在服用中の薬剤情報が綴られている 変更があったときには、職員に説明している 「服用のしかた」については医者の指示通りできているが、内容や副作用についてはなかなか理解しているまでに至っていない 自己管理をしている方には、毎日の箱入れが出来ているか確認するようにしている		常に『いつもと違う』という気付きを大切に、異常時には主治医に相談したり、併設の薬剤師、看護師に相談したりすることで症状の変化に気を付け、早期発見に努めている 主治医にはいつもと違う状態が見られたときに連絡を入れることで協力を頂いている

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜やきのこ類等のように食物繊維を多く含む食品を中心に調理メニューを立てるようにしている また、多目の水分補給や、毎日運動を行なう等して、薬に頼らないで自然な排便が排泄されるよう取り組んでいる		排便の確認が出来ない方がいるので、トイレに入った時には必ず確認させて頂けるよう声掛けていくと共に、排便間隔や表情・行動を把握し適切な誘導がこれからも出来るようにしていきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを大切にしている 一人ひとりの口腔状態に合わせ、青みがきを取り入れたり、イソジンなどの薬剤を使用することもある 自力で出来ない方には介助にて行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と運動による体重管理を行なっている 併設の栄養士に献立を見ていただくことで、必要な栄養が取れているかチェックをしていただいている 口渇感のない方にはなるだけ一口でも水分を取っていただけるよう支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成している 事業所内感染が広がらないよう職員、入居者共に手洗いうがいの徹底を行なっている 必要に応じて事業所内に張り紙などをして、面会者への協力を呼びかける時もある		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、食器乾燥機を使用したり、まな板・布巾は毎日消毒をするなど清潔に心掛けている 食材料は、なるだけその日の内に使い切るようにしている		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	着板の設置、玄関がすぐわかるように印を入れるなど工夫している 玄関周辺には、季節の花を植えるなどして家庭的な雰囲気を出すように工夫している 家族や福祉相談員からは「入ってきやすい」等の声を聞く		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すことは難しいが、冬季にはコタツを出したり、各自手作りののれんを掛ける等工夫している 季節の花を飾ったり、観葉植物で涼しさを演出したりしている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルーム・畳・ソファ等各自が思い思いの場所で自由に過ごされている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた品々を出来るだけ運んでいただくよう家族の方には常にお願している 各自手作りののれんを飾ったり、家族の写真を飾るなど少しでも居心地良く過ごせるように工夫している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄の臭いが充満しないよう換気には気を付け、必要に応じて消臭剤を使用している 換気・加湿に気を付け、温度計を設置することでこまめに調整するようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーでの設計になっていることもあり、各自の能力に応じた自立した生活が送れていると思う		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しやすい方や、入居日数が浅い方等には居室やトイレ等に表示をしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やベランダでの家庭菜園を入居者の方に管理していただいている 洗濯物などもホールやベランダで干すことで、各自がいつでも管理できるようにしている		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者の誕生日に合わせ誕生会を開いている 誕生会のメニューは誕生者の希望する献立を用意し、ゆっくりとした食事会を行なっている
- ・季節に応じた新鮮な食材を使用している 裏山で取れる筍、よもぎ等や、家族の方が山で取ってきてくださる山菜などを使用して調理をしたり、笹や竹の葉を使いディスプレイした盛り付け等を行なう時もある
- ・梅干作り、味噌作り、はまな味噌作り、甘酒作り、しそジュースなど昔から家庭で作ってきた入居者の持っている知恵を伝授していただいた食品を献立に取り入れている
- ・半夏至、土用の料理、正月のおせち料理作り、餅つき、米寿祝など家庭で行なっている季節に応じた行事を取り入れている
- ・外出行事(花見、日帰り温泉、地域の行事や催しなど)は入居者の希望を聞き、なるたけかなえられるような方向で検討し、実行できるよう努力している 入居者の方も「次はどこにつれていってくれるの？」と楽しみにされている
- ・入居者は何事(家事、炊事、レクリエーションなど)においても一致団結し積極的に取り組んでくださる 取り組まれている時は、各自生き生きとされており、職員が圧倒されるほどである
- ・家庭菜園は入居者の指導も適切で1年1年取れる作物も多くなってきている 取れた作物はすべて食卓に載せている
- ・施設母体が仏教関係と言うこともあり、花祭や彼岸のお参りや報恩講等に参加して説教を聞いたり、併設に物故者供養や毎月の法話会があれば、自由に参加出来る